

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成29年9月14日(2017.9.14)

【公開番号】特開2016-54713(P2016-54713A)

【公開日】平成28年4月21日(2016.4.21)

【年通号数】公開・登録公報2016-024

【出願番号】特願2014-185477(P2014-185477)

【国際特許分類】

A 01 G	9/18	(2006.01)
A 01 G	9/20	(2006.01)
A 01 G	9/24	(2006.01)
A 01 G	7/00	(2006.01)
A 01 G	7/02	(2006.01)

【F I】

A 01 G	9/18	
A 01 G	9/20	B
A 01 G	9/24	Z
A 01 G	7/00	6 0 1 A
A 01 G	7/02	
A 01 G	7/00	6 0 1 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年8月2日(2017.8.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

温室の気温湿度を調整して飽差を3～5g/m³にした状態で、植物に光を照射し、そこに炭酸ガスを局所施用することを特徴とする光合成促進システム。

【請求項2】

炭酸ガス供給源に接続したパイプを照明器具に取り付け、炭酸ガスと光を局所的に施用することを特徴とする光合成促進装置。

【請求項3】

前記パイプが多孔質樹脂で形成したポーラスパイプであることを特徴とする請求項2記載の光合成促進装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

しかして温室1の気温湿度をモニタリングしながら飽差が3～5g/m³になるように調整すると植物の気孔が開く。飽差が3g/m³より低いと過湿状態となり植物の葉の蒸散量が少なく気孔が閉じ、5g/m³より高いと乾燥状態となり乾燥ストレスで気孔が閉じてしまう。温室内の温湿度調整はフィードバック制御で行う。昇温手段はボイラやヒータを、加湿手段は水蒸気発生器を使用する。光合成に最適な気温は15～28度、相対湿度は

65 ~ 90 % の範囲である。この範囲で気温と相対湿度の数値を飽差 3 ~ 5 g / m³ になる
ように調整する。